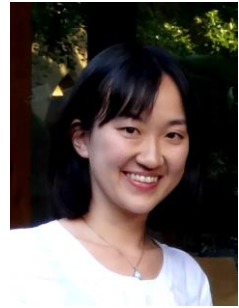


1. 研究課題名：

島嶼部における RAKUEN 指標の開発：
沖縄県石垣島・パラオ共和国を事例として



2. 研究代表者氏名及び所属：

飯田 晶子（東京大学工学部）

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

昨今、エコツーリズムが世界各地で推進されつつあるが、観光開発、環境保全、地域振興の均衡を保つためには、観光の多面的な影響を評価する視点が重要である。

本研究では、観光産業に関連したマテリアルフロー分析、土地利用の経年変化分析、産業連関分析等の手法を通して、観光の自然環境・社会環境への影響を評価する RAKUEN 指標を開発する。また、将来の観光シナリオを作成し、それを導入した際の影響評価を行う。研究対象地は、多様な生態系・生物多様性を有し、観光が基幹産業である沖縄県石垣島とパラオ共和国とする。

これにより、対象地域や今後エコツーリズムを推進する地域における持続可能な観光政策・環境政策に対して有用な知見を得る。

5. 研究項目及び実施体制

① 自然環境的側面からの RAKUEN 指標の開発 （東京大学）

② 社会環境的側面からの RAKUEN 指標の開発 （東京大学）

6. 研究のイメージ

4RF-1401 島嶼部におけるRAKUEN指標の開発：沖縄県石垣島・パラオ共和国を事例として

研究の特徴

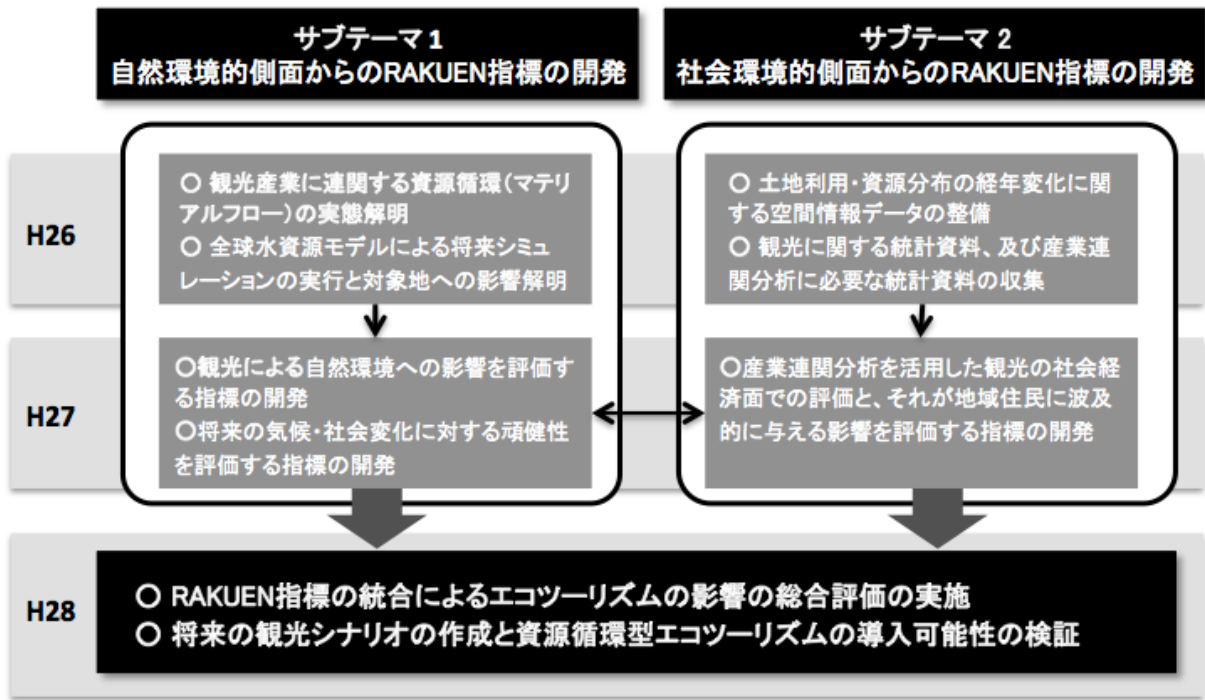
- ① エコツーリズムの影響の総合評価のためのRAKUEN指標の開発
- ② 資源循環型のエコツーリズムの実現に向けた指針の提示
- ③ 閉鎖系システムである島嶼部をモデルとした事例研究の実施

● RAKUEN指標とは..

本研究でいう「RAKUEN」とは、①自然環境の健全性、②地域住民の生活の質の向上、及び③観光客の満足度と観光業の振興の全てを満たす状態と定義する。また、「RAKUEN指標」とは、①～③のそれぞれを定量的・定性的に評価する指標の総称とする。





研究の構成とフロー



研究の対象地

多様な生態系・生物多様性を有し、かつ観光が基幹産業である2つの島嶼部

 沖縄県石垣島 人口約4.5万人、面積223 km²
観光客数 約80万人

 パラオ共和国 人口約2万人、面積458 km²
観光客数 約8万人

政策への貢献

- ・ 科学的成果を元にした沖縄県石垣島・パラオ共和国における観光政策・環境政策への提言
- ・ 小島嶼開発途上国(SIDS: Small Island Developing States)の持続可能な発展に対する知見の提供